

# 令和4年度 併設型小中一貫校 豊平学園北広島町立豊平小学校 学校評価自己評価表

## 1 経営目標・教育目標・経営方針等

<<校訓>> 「継続は力なり」(Practice makes perfect.)

**【豊平学園教育目標】** 志高く 未来を拓く 児童生徒の育成

**【小学校学校教育目標】** ふるさとに学び、ともに学び続ける  
たくましい児童の育成

<<めざす子ども像>>

- ◆ **と**ことんやる子 (基本的な生活習慣を身につけ、心身ともに元気な子)
- ◆ **よ**りよく学び続ける子 (学ぶ楽しさを味わい、確かな学力を身につけた子)
- ◆ **ひ**との気持ちを考え行動する子 (思いやりや社会性など豊かな心を持った子)
- ◆ **ら**ぶ(love)ある子 (郷土に誇りと愛着を持った子)

**【経営方針】**  
併設型小中一貫校・学校運営協議会設置校(コミュニティ・スクール)としての特性を生かし、「地域の教育力を生かした児童生徒の力を最大限に伸ばす学校」をめざす。

- 小中一貫教育の推進
- 保護者・地域と共に創る「ふるさと学習」の充実
- 地域へ貢献する学校づくり

協働

## 2 中期・短期目標、評価計画、評価・達成状況 《年間を通して計画的に評価し改善を図っていく》

項目	評価計画				自己評価				学校運営協議会評価		改善方策		
	中期経営目標 (小中一貫)	短期経営目標 重点	目標達成のための方策	評価項目・指標	目標 (年間)	中間 (目標)	中間 (達成)	達成度	評価	結果と課題の分析		評価	コメント
信頼される学校	コミュニティ・スクールを生かし、地域の願いを大切に信頼される学校・地域に貢献する学校づくりを推進する。	ふるさと学習・地域交流の推進 情報発信・学校公開の充実	○年間計画に基づき、地域の教育力を活用した「ふるさと学習」を実施する。 ○学校運営協議会を活性化する。 ○学校の取組、教育実践をHP、学校便り、ちゅピCOM等で、発信する。	・児童アンケートの肯定的評価の割合 ・地域・保護者アンケートの肯定的評価の割合	90%	90	91.7	102	A	○児童アンケート「豊平のことを学習することが楽しい。もっといろいろな学習がしたい」という設問における肯定的評価 91.7% (昨年7月 90.5%) ○地域の方を中心とした外部講師の招聘等により児童の意欲や肯定感が高まった。 ○保護者アンケートの肯定的評価 81.3% (昨年7月 83.3%) ○学校の取組発信は、学校・学園日より(HPでも掲載)が中心。HPのさらなる有効活用に取り組みたい。	A	適正である。	○学校運営協議会において、小中学校の授業参観や、PTA本部役員と共に義務教育学校先進校視察などを実施できた。今後もさらに児童生徒の姿や成果・課題を共有しながら連携を進めていく。 ○学校の取組発信については、義務教育学校移行を見据えながら持続可能な方策を模索していく。
たくましく健やかな体	生活の基盤となる健康な体、気力・耐力の育成を図るとともに、基本的な生活習慣の定着を図る。	基本的な生活習慣を身につけ、心身ともに元気な児童の育成 <b>生活リズム</b> <b>走力</b>	○各学級で基本的な生活習慣に関する指導を年2回実施する。 ○「生活リズムを整えるための取組」を年3回実施する。 ○体力づくり(走ること)の目標を設定させ、体育・業間体育等で取り組ませる。	・実態調査による目標達成の割合 ・新体力テストにおけるシャトルランの記録が県平均を上回った児童の割合	90%	90	83.4	92.6	B	○基本的な生活習慣に関する指導を各学級1回以上できた。「生活リズムの取組」では、1回目と2回目を比較すると起きる時刻、寝る時刻を守れた人が増加しているが、朝ごはんを食べる児童は低下した。児童への指導と保護者への啓発を継続する必要がある。 ○前年度最終評価と比較すると、減少した。児童の体力低下と併せて、意欲にも課題があると推測できる。校内マラソンや業間運動の実施により、体力と運動意欲の向上を目指したい。	B	ほぼ適正である。 ・新体力テストはシャトルラン1種目だけでなく総合評価(5段階判定)で評価してもよいのではないかと。→8種目の中から最も課題が大きかった「20mシャトルラン(持久力)」を重点項目として挙げた。記録はもとより、「気力・耐える力」の向上に期待している。	○新体力テスト2回目(10月)の総合評価は、A判定35.4%(6月比較+4.7p) B判定25.7%(6月比較+0.3p) C判定25.7%(6月比較-6.8p)と向上している。校内マラソン大会終了後も週1回の業間マラソンを継続するとともに、体育科授業でも持久力を意識した運動に取り組むことでさらなる向上を図る。
豊かな心	社会人として必要な資質や能力の基礎を築き、たくましく生きる力を育成する。	思いやりや社会性など、豊かな心を持った児童の育成 <b>3つの約束</b> <b>自主的活動</b>	○来校者に対しても気持ちの良い挨拶ができるよう、計画的に重点週間を設け、目標をもって取り組ませる。 ○北風と太陽作戦(みんなのために活動していることや思いやりの心を見取る評価活動)を年間を通じて実施する。	・挨拶で2回表彰を受けた児童の割合 ・アンケートで「みんなのために活動している」と答え、具体が書けた児童の割合	80%	60				挨拶週間の表彰は2回目が未実施のため評価を見送ります。 ○挨拶のレベルを向上させるため、今年度から表彰の基準を厳しくしている。6月に実施した挨拶週間の表彰者は23名(20%)。来校者への挨拶をする児童や「いつでも・どこでも・だれとでも」挨拶を心がけている児童は増えている。日ごろの評価活動を継続することで、今後の重点週間で表彰者が増えるようにする。 ○「みんなのために活動」の具体を書けた児童は全校的には多いが、一部の学年で低かった。職員全員で価値づけを行い、自己肯定感を高めていく必要がある。	A	適正である。	○中間評価以降に、2回目の挨拶運動や、「北風と太陽作戦」(みんなのために活動している児童の評価活動)を実施した。重点期間を設けて職員全体で児童の行動への価値づけを行ったことで自己肯定感の高まりが期待できる。最終評価に反映させていきたい。
確かな学力	学ぶ楽しさを味わわせ、基礎・基本の確かな学力の定着を図る。	学ぶ楽しさを味わい、確かな学力を身につけた児童の育成 <b>個に応じた学習</b> <b>学力向上</b>	○児童の学ぶ喜びが高まる「導入」「振り返り」を重視した指導の工夫や授業作りに取り組む。 ○基礎学力の系統的な積み上げによる授業改善を行う。	・学習アンケートにおける肯定的回答の児童の割合 ・単元末テスト平均通過率(国・算)80点以上 ・CRTテストにおいて全国比105以上の児童の割合	90%	90	88.4	98.2	B	○学ぶ喜びを実感している実態があるが、わずかに目標値に到達しなかった。友達との学び合いを通して喜びを実感した肯定的回答が自己解決の喜びに比べて低かった。ペアやグループ学習の内容が充実していなかったことが理由として考えられる。 ○国語と比較して算数に課題を感じる児童が多い。同学年の中でも達成度にばらつきが見られ、二極化している学年がある。学習内容と既習事項が結びつかなかったことが考えられる。	A	適正である。	○ペアやグループでの学び合い活動において、目的を明確にしたり、協働的に解決するよさを価値づけたりするなど、充実に向けて改善を重ねる。 ○授業づくりとともに、個のつまずきに合わせた指導も継続していく。

評価基準 【自己評価】 A: 100 ≤ (目標達成) B: 80 ≤ (ほぼ達成) < 100 C: 60 ≤ (もう少し) < 80 D: (できていない) < 60  
 【学校運営協議会評価】 A: 自己評価は適正である B: 自己評価はほぼ適正である C: 自己評価はあまり適正でない D: 自己評価は適正でない E: 分からない